

# プログラム近況報告

フィリピン共和国 サマール地域開発プログラム(PHL-194416)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)



給水システムを喜ぶドリーさんとロデル君

人間らしい生活を送る上で、水は欠かせません。しかしサマール地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域に暮らす人々にとって、きれいな水は簡単に手に入るものではありません。支援地域に暮らすドリーさん(55歳)とその息子のロデル君(11歳)は、長い間、水を起因とする病気に悩まされてきました。

「長い間、下痢は私たちのコミュニティで頻繁に発生する病気でした」とドリーさんは語ります。

数年前、ドリーさんとロデル君が暮らす地域で下痢が流行った時、ロデル君も下痢にかかってしまいました。学校を休まざるを得ず、そのため勉強が遅れてしまいました。また、水が必要な時には、水汲みのために2～3キロ歩かなければならず、蛇や虫にかまれる危険がありました。

しかし今では、ADPの支援により給水システムが設置され、「自宅の近くで、きれいな水を手に入れたい」という夢が実現しています。ドリーさんは語ります。「ワールド・ビジョンに感謝しています。この給水システムができた日から、私たちのコミュニティでは水が原因による下痢にかかった子どもはいません。息子のロデルも、今では毎日学校に通っています。私たち以外にも多くの家族が、この給水システムの恩恵を受けています」

## 地域の衛生環境が改善されています!

### チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。



特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長

片山信彦

## ADPマネージャーからのごあいさつ

親愛なるスポンサーの皆さま

サマール地域の子どもたちとその家族を代表して、皆さまからのご支援に、心から感謝申し上げます。皆さまのご支援は、子どもたちの抱える問題に取り組んで行く上で、多大な貢献をしてくださっています。

私たちがここでやるべきことはまだ多くありますが、皆さまからのご支援によって、少しずつ実現していけるよう努めて参ります。引き続き、皆さまからのさらなるご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

リーズル R オング (サマールADPプログラム・マネージャー)



## 教育プロジェクト

教育プロジェクトでは、教室の修復や学校備品（イスや黒板など）の支援によって、1,877人の子どもたちがより安全で、快適な環境で勉強ができるようになりました。また、489人の子どもたちが子ども議会の様々な活動に参加し、子どもの権利や責任について学びました。また、「小さな先生」になるためのワークショップに、24人の子どもたちが参加し、人形劇や読み聞かせ、身振りを交えた歌、図画工作やゲームのやり方を学びました。子どもたちは学んだことを活かし、それぞれが住む地域でほかの子どもの権利について伝えていきます。参加した子どもの一人は、「ワークショップで学んだことを仲間たちに伝えていきたいです」と話してくれました。



ADPの活動で学んだ子どもの権利と責任について、人形劇を使って説明する12歳～13歳の子どもたち。391人の子どもたちが、この「小さな先生」たちから学びました。この「小さな先生」たちは、子どもの権利について自分たちの仲間伝えることだけでなく、将来責任感のある大人になるための研修も受けました



「小さな先生」になるためのワークショップで、成果を発表する子どもたち



トレーニングで学んだ読み聞かせをクリスマス会で披露する子どもたち。このお話し会を通じて、子どもたちはクリスマスと周囲の人を大切にすることについて学びました

## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

チャイルドのモニタリングや、スポンサーとの文通などのためにボランティアとして協力しているのが、チャイルド・マネジメント委員会のメンバーです。そのリーダーを務めるパロさん（48歳）は、チャイルドたちに2013年度の成長報告の書き方を教るなど、スポンサーシップの活動を行う上で欠かせない存在です。パロさんを始めとするメンバーの積極的な協力により、チャイルドたちとスポンサーの皆さまとの交流が深められています。



2013年度の成長報告を作成する子どもたちとボランティアメンバーのパロさん



## 保健衛生プロジェクト

保健衛生プロジェクトでは、5歳以下の子どもの保護者31人を対象に、栄養管理についての研修を実施したほか、40世帯にトイレ設置のための資材を支援しました。地域ではほとんどの世帯にトイレがなかったため、人々の健康と地域の衛生環境が大きく改善しています。トイレの設置に必要な費用は、支援を受ける世帯とバランガイ議会と費用を分担しています。さらに、一つのバランガイに給水システムを設置し、200世帯が安全な飲料水を手に入れられるようになりました。

※フィリピン最少行政単位をバランガイと呼びます。「バランガイ議会」とは、日本で言う町内会に近い組織です

栄養不良の子どもたちを持つ母親に対し、栄養ある食事を準備することの大切や、子どもを適切にケアする方法、自分たちの地域で手に入る安くて栄養ある食材について学ぶ研修を行いました。参加した女性たちは、「私たちの地域でも、バランスが取れた栄養ある食材が手に入る事が分かって嬉しいです」と話してくれました。今後は、自宅でも新鮮で健康に良い野菜を手に入れられるよう、家庭菜園での野菜の栽培についても学ぶ予定です。これらの支援を通じて、地域の子どもの栄養状態が改善されることを目指しています。



母親学級で母乳育児についての研修が行われました

母親向けの栄養クラスで、家族のために1カ月間の献立を考える女性たち



自宅前で、子どもたちとおしゃべりするロジーさん(写真右端)

ロジーさんは、トイレ設置のための資材の支援を受けた一人です。支援を受けなければ、貧困の中に暮らすロジーさんの家族にとって、自宅にトイレを設置することは優先事項とはなり得ませんでした。支援によりロジーさんの子どもたちは自宅でトイレを使えるようになり、大変喜んでます。ロジーさんは「以前、子どもたちは何度も『ママ、どうしてうちにはトイレがないの?』と聞いてきました。支援でトイレを設置することができ、子どもたちは用を足すために川や裏庭に行く必要がなくなり、悪臭もなくなりました。これまで子どもたちが用を足しに行くたびに、蛇や虫にかまれやしないかいつも心配していました。ワールド・ビジョンに感謝しています」トイレが設置された喜びをこう話してくれました。

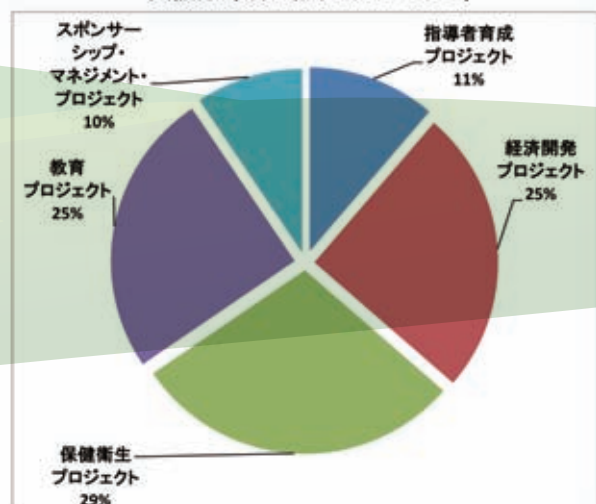
## 会計報告

### 収支計算書

自 2012年 10月1日 至 2013年 9月30日

	PHL-194416 (単位:円)
<b>プログラム支援額</b>	
チャイルド・スポンサーシップ	14,631,513
当期支援額	14,631,513
前期繰越金	8,446,563
<b>プログラム支援額合計</b>	<b>23,078,076</b>
<b>プログラム支出額</b>	
地域組織化プロジェクト	2,003,178
経済開発プロジェクト	4,464,100
保健衛生プロジェクト	5,173,802
教育プロジェクト	4,453,291
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	1,677,780
<b>プログラム支出額合計</b>	<b>17,772,151</b>
次期繰越額	5,305,925

### 支援分野別内訳( PHL-194416 )



## 経済開発プロジェクト

社会福祉省と協力し、2つの貯蓄・融資組合に所属する36人の組合員に対し、フィリピン政府が行っている社会福祉プログラムについての説明会を行いました。このプログラムを通じて資金援助を受け、生計向上に役立てるための事業を行うことを検討しています。説明会の後には、組合員同士で話し合いを行い、服の製造・販売や肉の販売を行ってはどうかという意見が挙げられました。今後、地域住民の生計向上に役立てられることが期待されています。



社会福祉プログラムについての説明会の様子



有機農法の作り方について学ぶ講習会の様子

有機農法のトレーニングの一環で、有機肥料の作り方についての講習会を開催し、40人の農民と20人の母親が参加しました。講習会で実際に有機肥料を作ることで、自分たちの地域で手に入る材料で、安く安全な有機農法を行えること、地域でよく発生する害虫や病気に対してもより安い技術で対応でき、多くの収穫を得られることを学びました。参加者は、「余った作物や材料など、ゴミだと思っていた物も有効に使えることを知って驚きました」と語ります。また母親たちも、「学んだことを自宅の家庭菜園で実践し、子どもたちのために無農薬の野菜を収穫したいです」と話してくれました。

昨年度から活動を始めたバランガイ内の有志による貯蓄・融資組合は、グループとして貯蓄し、融資を受けたい時に低利で融資を行う地域の自助組織です。今年度は、週に一度集まる通常の活動のほかに、組合員を対象とした会議を開き、6つの組合から121人が参加しました。会議では、貯蓄・融資組合の活動の中で成功した取り組み事例などについて共有され、またさらなる貯蓄を奨励するため、良い成果を上げたグループやメンバーを表彰したほか、各グループが今後3年間のビジョンや方向性を発表しました。メンバーの一人であるグレースさんはこれまでの活動を振り返り「私は以前、同じ地域に住むある女性と良い関係ではありませんでした。同じ組合員として活動していくうちに、関係を改善することができました。毎週の貯蓄・融資組合の活動を通じて、私たちは財政的に助けられています。住民同士がお互いに助け合うようになったことが、何よりうれしいです」と話してくれました。



貯蓄・融資組合での会議に参加する組合員

## 指導者育成プロジェクト

子どもたちが、自分たちの住む地域づくりに参加することはとても大切です。1年間の振り返りミーティングを開催し、64人の子どもたちが参加しました。子どもたちは、自分たちが住んでいる地域で起こっている変化をよく見ています。会議では、それぞれの地域が抱える課題、それに対する取り組みによって地域がどのように変化しているか、またその変化が子どもたちにどのように影響しているかについて、子どもたちの目線で話し合いました。子どもたちの意見は、今後のADPの実施計画にも反映されます。



一年間の活動について振り返る子どもたち。子どもたちも地域の課題を考え、活動に積極的に参加しています

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX:03-5334-5359

e-mail: [dservice@worldvision.or.jp](mailto:dservice@worldvision.or.jp) ホームページ: [www.worldvision.jp](http://www.worldvision.jp)

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。



# プログラム近況報告

フィリピン共和国 レイテ地域開発プログラム (PHL-196206)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

## 「子ども月間」をお祝いました!

子どもたちが国の将来に果たす役割の大切さを強調するため、毎年10月は「子ども月間」としています。レイテ地域開発プログラム(以下、ADP)

では子ども向けのイベントを開催し、地域の子どもたち509人が参加しました。イベントでは子どもの権利と責任について子どもたち自らが考え、意見を交換しました。ギャンブルや飲酒といった、子どもたちの身近にある問題についても考えました。子どもたちは、自分たちの両親や地域の大人たちがこのような問題から遠ざかり、生活の向上を目指してほしいと願っています。

また、地域では、栄養不良がとても多く見られます。この問題に対処するため、タクロバン市の4つの地域で家庭菜園の支援を行いました。うち1つの地域は2013年5月から家庭菜園の支援が始まり、16世帯が参加し、各世帯の希望に応じた種子と肥料を支援しました。



子ども月間に開かれたイベントでは、子どもたち自身が子どもの権利と責任について話し合いました



家庭菜園の支援を受け、さやいんげんやオクラが収穫できるようになり喜ぶ女性

### チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。



特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長

片山 信彦

## ADPマネージャーからのごあいさつ

フィリピンより、心を込めてごあいさついたします。  
2013年はレイテADPにとって、そしてフィリピン全体にとって忘れられない年となりました。2013年11月8日に発生した台風ハイエンにより、レイテADPを含む中部ヴィサヤス地方の広範囲が史上まれに見る被害を受けました。ちょうどADPによる活動の成果が少しずつ見えてきた時期で、さらに悪いことに、私たちが重点的に活動してきたバランガイも、大変な被害を受けてしまいました。

しかし、皆さまの温かいご支援により、私たちは台風ハイエンの被害から立ち直ろうとしています。ADPの支援地域では、1,602世帯が台風後ただちに食糧や衛生キット、半壊もしくは全壊した家屋のための防水シートといった緊急支援物資を受け取りました。子どもた

ちの心のケアを目的とした。チャイルド・フレンドリー・スペースも設置されました。現在、レイテADPでは、被災したコミュニティの復興を支援するため準備を進めています。

皆さまの、子どもたちへの温かいお気持ちに心より感謝するとともに、ここに台風が起こる前年度の活動についてご報告申し上げます。子どもたちの人生に変化をもたらしてくださり、誠にありがとうございます。

※バランガイ…フィリピンの最小行政単位

グレスルダ G バローロ  
(レイテADPマネージャー)



## 経済開発プロジェクト

地域内の有志メンバーによる貯蓄・融資組合 (COMSCA) による活動を行い、2013年度は、計12のCOMSCAが運営されました。メンバーは週に一度集まり、それぞれ少額を出し合いグループとして貯金をし、その貯金で子どもの制服や、食料、薬など、家族の必需品の購入や、家族や親族の事故、病気、死亡などの非常事態が発生した際に、低利で融資を受け



足マットの製造方法を学ぶメンバーたち

ることができます。また、中には洗濯石けん、布、食器洗剤の販売を始めたり、足マットの製造に携わっているグループもあります。商品の売上は、メンバー全員に平等に分配されます。COMSCAに参加することで、メンバー同士が親しくなり、それぞれの家族が抱える問題や懸念を自由に話し合い、お互いに助け合えるようになっています。

## 教育プロジェクト

2013年8月20日～30日、政府やNGOの主要な関係者を対象に、緊急時における子どもの保護研修を実施しました。人権委員会や市の教育省、ADPの支援地域の議会やボランティアグループのメンバーなどが参加し、災害への備え、災害発生時に子どもたちを保護し、心のケアを行う方法や災害時の避難生活の中でも子どもたちが安心して遊べる場であるチャイルド・フレンドリー・スペースについて学びました。また、それぞれの組織やグループ、コミュニティで、緊急時に

子どもたちを優先的に保護するにはどうしたらいいか考えました。



災害発生時に備えた研修に、地域の行政機関や住民が参加しました



## 保健衛生プロジェクト

地域の小学校で行われた「世界手洗いの日」のイベントを開催し、教師や地域の代表者、教育省の関係者など計55人が参加しました。このイベントでは、手洗いの大切さを伝えただけでなく、子どもたちの健やかな成長のために、子どもたちの健康が支えられ、教育を受けることができ、参加する権利が保障される地域を目指す活動への協力と理解を訴えました。



「世界手洗いの日」のイベントで、正しい手洗いの仕方を実演する小学校の児童たち

また、2013年9月16日～19日、自治体レベルで子どもたちを守るための機能を強化・維持することを目的とした研修を行いました。トレーニングには、市の社会福祉開発局や議会、レイテADPが活動しているバラングイの警察、教育省、子どもの福祉のための小委員会などから計47人が参加し、互いに協力し合って子どもたちを守るための機能を強化、維持するための計画を自治体、市、地域ごとに作成しました。



イベントでは、子どもたちにとってより良い地域となることを目指し、参加者が積極的に意見を交わしました



子どもの権利を守る法律の必要性を分かりやすく説明しています

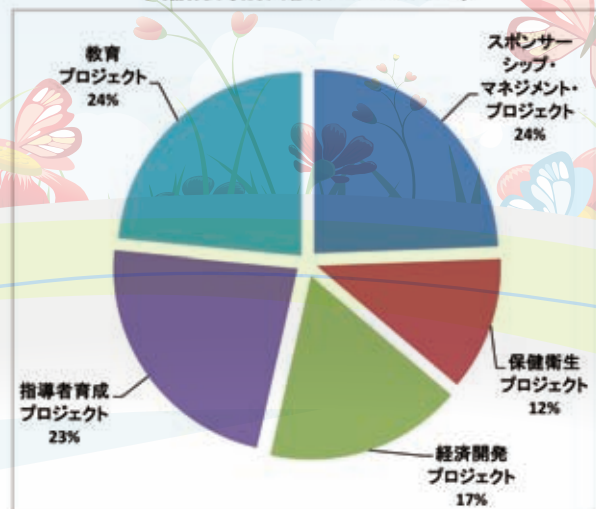
### 会計報告

#### 収支計算書

自 2012年 10月1日 至 2013年 9月30日

	PHL-196206 (単位:円)
<b>プログラム支援額</b>	
チャイルド・スポンサーシップ	19,708,109
当期支援額	19,708,109
前期繰越金	8,037,093
<b>プログラム支援額合計</b>	<b>27,745,202</b>
<b>プログラム支出額</b>	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	4,585,893
保健衛生プロジェクト	2,219,567
経済開発プロジェクト	3,260,210
指導者育成プロジェクト	4,315,482
教育プロジェクト	4,412,663
<b>プログラム支出額合計</b>	<b>18,793,815</b>
次期繰越額	8,951,387

#### 支援分野別内訳( PHL-196206 )



## 指導者育成プロジェクト

教師を対象にした、子どもたちの安全を守るためのトレーニングも実施されました。これは、教師たちが児童虐待を受けている子どもを発見するだけでなく、子どもたち自身が声をあげ、相談できるようになることを目的としています。

教師たちへの研修の様子。子どもたちが性や児童虐待について相談できる環境づくりに向けて知恵を出しあっています



## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。チャイルドを定期的に訪問し、スポンサーとの文通などのためにボランティアとして協力しているのが、CMC（チャイルド・マネージメント委員会）のメンバーです。現在、5カ所の地域から34人が参加しています。子どもたちの健やかな成長を確かなものとするため、メンバーたちは地域を代表してADPの活動に協力しています。CMCが開催する子どもたち向けの活動がより楽しい

ものとなり、また、スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクトを円滑に進めることができるように、メンバーへの研修を定期的実施しています。月日が経つにつれ、メンバーたちの責任感と自信が高まっています。



手形から蝶々を作る工作を学ぶCMCのメンバー

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX:03-5334-5359

e-mail : [dservice@worldvision.or.jp](mailto:dservice@worldvision.or.jp) ホームページ : [www.worldvision.jp](http://www.worldvision.jp)

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。